

日本高等学校野球連盟とNPBによる野球の普及・振興事業連携協力

「キッズ ファースト アクション

～みらいへのキャッチボール プロジェクト～」について

2025 年 8 月 13 日

日本高等学校野球連盟

1. 「キッズ ファースト アクション」とは？

日本高等学校野球連盟と日本野球機構（NPB）は 2025 年 7 月、未就学児等への野球の普及振興事業を連携、協力して実施していくことに合意しました。この共同事業は「キッズ ファースト アクション～みらいへのキャッチボール プロジェクト～」と名付けられ、高校球児と幼児が野球あそびを通じて触れ合う機会を全国に創出し、継続して実施することを両方で目指していきます。具体的には、日本高野連加盟校が地域の保育園、幼稚園、こども園等を訪問し、野球あそびの体験活動を行うことを奨励していきます。

保育園等を訪問する活動は 2024 年度時点で、すでに約 400 校の加盟校が実施しています。今後、2027 年までの 3 年間で、加盟校の約半数にあたる 2000 校が実施することを目標にしていきます。

「キッズ ファースト アクション」を通じて、野球の普及振興のみならず、幼児と高校生の健全な成長を促すとともに、将来、地域を担う人材の育成、地域貢献にもつながることも期待しています。

「キッズ ファースト アクション」というプロジェクト名には次のような思いが込められています。

- ・キッズ ファースト：キッズ（幼児）を第一、中心に考え、幼児と高校生が一緒に楽しく「あそぶ」ことで、幼児の健やかな成長を促進します。
- ・ファースト アクション：幼児が初めて野球あそびを体験する機会を創出します。そしてこの活動と笑顔を全国に広めます。

2. 関係各者の役割

- ・ N P B : 普及振興活動のノウハウの提供
用具等の提供
講習会の開催
- ・ 日本高野連 : 都道府県連盟、加盟校への周知、情報提供
活動実績の集約、NPB への報告
保育園、幼稚園団体等への働きかけ
- ・ 都道府県連盟 : 加盟校への周知、情報提供
保育園、幼稚園団体等の都道府県支部などとの連携
訪問先選定の補助、活動実績の報告
- ・ 加盟校 : 保育園等の訪問、活動の実施
活動実績の報告

3. 加盟校の訪問活動実施の流れ

- ① 地域の保育園等へ訪問を打診
- ② 実施の計画を立てる
- ③ 用具等の注文
- ④ 訪問活動を実施
- ⑤ 訪問実績を報告

- ・ 訪問先の選定方法は自由。学校の近くの園等が望ましい。
- ・ 回数、内容とも特に規定はない。
- ・ 対象は野球未経験の未就学児（小学校1，2年生も可）。

4. 加盟校に提供する用具等

N P B から以下の用具、グッズを加盟校の希望に応じて提供いたします。

- ・ ビニールボール
- ・ リストバンド
- ・ 帽子
- ・ ティーボールセット

注文方法は、9 月中にご案内する予定です。

それに先立って、必要数を把握するため、加盟校の提供希望数の調査を実施します。

[キッズファーストアクションの提供用具などの発注について]を参照して、都道府県連盟を通じてお知らせください。希望調査の第1次締め切りは8月31日です。

また、N P B 作成の教本（3種類）を都道府県連盟から配布いたします。

- ・ 幼児の楽しいボールあそび活動
- ・ 笑顔のキャッチボール
- ・ 幼児とボールで楽しく遊ぶには

5. 都道府県連盟への依頼事項

① 加盟校への周知、情報伝達

加盟校が一堂に会する機会などを利用して、「キッズ ファースト アクション」について加盟校に周知していただきますようお願いいたします。また、当連盟では今後、訪問活動の参考となる資料や動画の作成、先行事例の紹介などを進めていく予定です。これらの情報を加盟校にお伝えください。

② 保育園、幼稚園団体等の都道府県支部などとの連携

当連盟では、以下の団体に、「キッズ ファースト アクション」への協力の働きかけをしているところです。今後、保育園団体等の都道府県支部と連携を取り、加盟校の訪問先選定の補助をしていただくことも考えております。各団体の協力体制がまとも次第、随時、都道府県連盟にも情報をお伝えします。

- ・ 社会福祉法人 日本保育協会
- ・ 全国保育協議会
- ・ 公益社団法人 全国私立保育連盟
- ・ 全日本私立幼稚園連合会
- ・ 特定非営利活動法人 全国認定こども園協会
- ・ 一般社団法人 全国認定こども園連絡協議会

6. 「キッズ ファースト アクション」で期待される効果

当事業を展開することで、保育園、幼稚園等、高校、野球界においてそれぞれ期待される効果は以下の通りです。

① 保育園、幼稚園等

- ・子どもたちが、「投げる」「捕る」「走る」「打つ」など多種多様な動き、運動を幼少期の段階から経験することで、心身の健全な発育・発達につながる。
- ・子どもたちが、野球あそびを通じて身体を動かすことの楽しさ、面白さを知ることができる。
- ・子どもたちが、保育士、家族以外の、年の近い大人と接することで、社会性やコミュニケーション能力を育むことができる。
- ・「野球あそび」というカリキュラムのノウハウを得ることができる。
- ・「野球あそび」のための用具などの提供を受けることができる。
- ・地域の高校とのつながりができ、地域全体での教育力の向上につなげることができる。
- ・保育士という職業を高校生に身近に感じてもらうことができる。

② 高校

- ・高校生が、子どもたちとあそぶことで、文科省が推奨する「体験活動」の機会を得ることができ、豊かな人間形成にもつながる。
- ・高校生が、子どもたちとの野球あそびを通じて、あらためて野球と向き合い、野球へのかかわり方を多面的に考えるきっかけとなる。野球の普及・振興にかかわることで、野球に対する視野を広げる機会となる。
- ・高校生が、学校以外の場所で活動することで、将来の社会参画について考える機会となる。
- ・子どもたちがあそびを通じて野球に触れることで、野球に対する興味、関心が生まれ、将来、高校で野球をプレーする可能性が広がる。

③ 野球界

- ・野球の楽しさを広めることで競技人口の拡大、野球の振興、発展につながる。
- ・地域社会との連携、協同により、地域の力で子どもたちの成長に寄与するなど、地域に貢献できる。